

## 2019年度事業報告書

2018年10月1日から2019年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

今年度の医療技術指導は、ベトナムではハノイにて日本国際眼科病院(以下JIEH)での教育・指導を行い、ハノイ以外ではベトナム中部地域の医療拠点となるフエ眼科病院での網膜硝子体手術の技術指導や教育を重点的に行った。また、地方での無償白内障手術プロジェクトを通じて、新たにAPBAのメンバーに参加してきたNo.6のChing医師の成長が著しく、No.2のHung医師(JIEH院長)、No.3のDuc医師(Telecom病院副院長に昇格)に代わりになる医師をどんどん若手医師を育成するとともに、地方の医師への白内障手術の技術移転を行い、重点的に行ったQuang Ninh省では、4名の若手Phaco(超音波白内障手術)だけでなく、EGCE(計画的囊外摘出術)、眼内レンズの2次逢着なども行える体制となった。服部医師は、ベトナム以外でも、手術をするだけでなくその高い網膜硝子体手術の技術をラオス(約10年間)、特にミャンマーの医師への技術移転のために内視鏡を用いて手術を積極的に行い(約9年間)、ラオスやミャンマーの若手医師の指導をおこなった結果、ラオスやミャンマーでも網膜剥離や簡単な糖尿病網膜症出血などの手術などは現地の医師がおこなえるようになった。ベトナム人1名眼科医師を本学の眼科で1ヶ月間研修、ラオス人眼科医師をタイの研修施設に1年分の研修費用を支援している。また京都府立医科大学眼科ではタイを中心にシンガポール、中国、台湾など多くのアジアからの留学生を受け入れており、引き続き木下医師を中心にタイのチュラロコーン大学との交流を深めるなど、アジア諸国との交流や医師の育成に力を入れている。

治療支援事業は、ほぼ毎月各地方において無償の白内障手術と網膜硝子体手術を行い、今年度も約1000名以上の患者さんに無償治療を実施した。日本語の通訳のThiemさんの活躍も著しく、高校生ら等日本人が多く来るときには輩を連れてくるなど、彼は通訳業務以外にも多くの業務をこなしており、プロジェクトでは欠かせない存在となっていて、今年度のプロジェクトでは年末に行ったBinh Phouc省以外はすべて参加し、JTBハノイの所長と話し合いながら、スケジュール調整をさせていただきThiemさんがボランティアに参加できるように協力してもらっている。今年度予定していたQuang Nam省かHa Tinh省、では梅田大使の紹介で、人民委員会委員長にお会いして、トップダウンで実施してもらう予定であったが、眼科病院の院長の引退や現地医師の戸惑いなどで実施できなかった。5月には数年ぶりにThai Nguyen省でプロジェクトが行われ、トップダウンでプロジェクトが順調に行われた。これまで発症しなかった眼内炎が1件発症し、その医師は初めての参加でベテランであるにもかかわらず、2件手術を行いすべて破囊したためレッドカード(1回破囊するとイエローカード1枚、2枚のイエローカードで手術禁止)をもらっているにもかかわらず、手術を行い、なおかつ失敗し、3日後に症状を発症し、JIEHにて緊急手術を行い、現在(0.4)まで回復している。3月からは新しいNhung医師(JIEH)も参加しているが、必ず丁稚奉公からはじめ、叩き上げて鍛えていくのがAPBAの過去の慣習であり、手術だけを目的として参加する医師の対応を検討しなければならない。また、今年度はExpireのレンズが増え、保健省のボランティアに対する監視も厳しいために、新しい眼科医レンズを400枚購入した。(医療保険の購入価格の半額)これが予算を300万予算を超過することになったが、必要物資なので購入はやむを得ず、また地方にいる人にとってこうした手術の機会は1回しかないのに、品質の良い非球面レンズを選択した。高校生のボランティア参加は現在のところ3校であるが、他にも要請があるので、又検討したい。日本の研修医師や医学生の参加も増えてきており、現地の人民委員会および医療保健局などと調整・連携が良く、プロジェクト実施において日本人(外国人)の人数が多くても全く問題は発生しなかった。若い世代でこうした経験ができることはとても素晴らしい事なので、積極的に受け入れていきたいが、引き続き彼らの安全確保などにも注意を怠らないようにプロジェクトが無事に実施できる体制を作っている。また、栗原医師がラオスの地方でチャリティー活動を行い大変好評であった。

物資支援事業では、日本政府の草の根支援無償(SGA)で、今年度はQuang Nam省において実施され、調印式がおこなわれ、大使館より現地の医療保健局にお金が振り込まれるが、それから機材の購入まで不正防止という理由により半年以上の時間を要し、大使館より現地政府に一筆書いていただき、問題の解決に協力していただいた。これはフエ眼科病院の時も同じで、医療保健局がなかなか許可を出さないで、時間がかかるために、こんごとも、SGAの調印式が行われてからは、迅速に機材が購入されるように大使館と連携していく。今年こそQuang Nam省でプロジェクトを実施し、現地の眼科医療サービスの向上を願っている。来年度はNinh Thuan眼科病院にお願いしている。管轄がホーチミン総領事館となるために、5月に直接河上総領事と会食しながら、田中書記官らと一緒にお願いした。また、アジア失明予防の会として、とても小さな草の根の機材支援であるが、なかなか医療機器が行き届かない地方病院に対して、非常に有用となる医療資機材などの寄贈を積極的におこなった。これまでPhacoを行っていたThai Nguyen総合病院の白内障機器が故障し、修理不可とのことで、プロジェクトを行う際に、新しいPhaco機器と顕微鏡を寄贈した。ベトナム国立眼科病院やフエ眼科病院に内視鏡プローブを寄贈した。顕微鏡はQuang Ninh省のQuang Yen地方医療センター(Dr. Ching)に寄贈した。そしてもう1台は顕微鏡がスモッグのようになっていたために、ハイフォン眼科病院に1台に寄贈した。ハイフォンはどうしても海の近くにあり、手術室や重要な機器が入っている部屋の窓は2重にしているもカビが生えやすい。もちろんエアコンや除水器なども設置しているが、それでも湿度がたかい。

宣伝広告は、服部医師が各地で講演活動を行ったり、企業回りをし、助成金や寄付金などを申し出ただけの企業を探したり、NGOや公的機関に助成金申請を積極的に行っている。また、新聞記事にもなったが、大阪国際大和田高校で講演したり、九州の明善高校で講演をして、若い世代にボランティア精神の大切さや、眼が見えていることの幸せなどを改めて、感じてもらえるように話をして大変好評であった。他方、理事の方々は法人会員を新たに10社増えることを目標として努力をお願いしたが、逆に1社退会したことは非常に残念なことである。

2019年度事業報告書

(法第28条第1項関係)

2018年10月1日から2019年9月30日まで

特定非営利活動法人アジア失明予防の会

1. 事業の実施に関する事項  
(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名     | 事業内容                                    | 実施日時  | 実施場所   | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数              | 予算額   | 支出額(千円) |
|---------|---|---|--|--------|---------------------------|-------|---------|
| 医療技術指導① | 眼科医療技術の教育・指導・普及や医療技術スタッフの派遣             | 年度内12回<br>120日<br>2018年<br>10月<br>11月<br>12月<br>2019年<br>1月<br>2月<br>3月<br>4月<br>5月<br>6月<br>8月 | ◎ベトナム<br>ハノイ市(日本国際眼科病院など)<br>フエ市(フエ眼科病院)<br>ハイフォン市(ハイフォン眼科病院)<br><br>◎ベトナム-クアンニン省・バクカン省・ニントアン省・ダックラック省・<br><br>◎ラオス-ピエンチャン・サバナケート地方病院などで超音波白内障手術の教育・指導<br><br>◎ミャンマーヤンゴン国立眼科病院などで白内障手術、網膜硝子体手術の教育・指導 | 7名     | ベトナム、ラオスなどの医師や看護師など医療スタッフ | 3,750 | 3,953   |
| 医療技術指導② | アジア諸国と日本の眼科医療従事者の技術・情報交流の促進             | 年度内2回   | ベトナム、タイ(チュラルコン大学)日本国内  | 7名     | ベトナムの医師1名                 | 1250  | 958     |
| 治療支援①   | 貧困により目の治療ができない人々への治療の斡旋・支援や眼科検診などの啓発活動  | 年度内10回<br>1200名   | ◎ベトナム<br>ハノイ市・フエ市・ハイフォン市<br><br>クアンニン省・ピンフック省・ニントアン省・バクカン省、<br><br>◎ラオス-ピエンチャン・サバナケート地方病院など  | 10名    | ベトナム、ラオスなどの国々の貧困層の人々      | 9,250 | 12,121  |
| 治療支援②   | アジア諸国の眼科患者の日本での治療の斡旋・支援                 | 年度内1回   | 日本国内   | 1名     | ベトナムの患者                   | 0     | 0       |
| 物資援助    | 眼科医療資機材などの提供                            | 年度内8回   | ベトナム、ラオス   |        | ベトナム、ラオスへの病院              | 9,000 | 8,719   |
| 広報活動    | ホームページ・DVD/レター・講演会によるPR活動・チャリティーパーティーなど | 随時公開  | 日本国内   | 4名     | 広く一般に                     | 2,000 | 2,208   |